

研究・調査報告書

報告書番号	担当
3 6 6	滋賀医科大学福祉保健医学講座
題名 (原題/訳)	
Drinking pattern and risk of non-fatal myocardial infarction: a population-based case-control study. 飲酒パターンと非致死的心筋梗塞の危険: 一般集団における症例対照研究	
執筆者	
Trevisan M, Dorn J, Falkner K, Russell M, Ram M, Muti P, Freudenheim JL, Nochajski T, Hovey K.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Addiction. 2004;99:313-22.	
キーワード	
心筋梗塞・飲酒パターン・禁酒・週末飲酒・毎日飲酒	
要 旨	
<p>(目的) これまでの研究において、アルコール摂取によって、心臓病の発症および死亡の危険は減少することがわかっている。しかし、ほとんどの研究では、期間内の平均飲酒量のみ注目し、飲酒パターンにはほとんど注目されていない。本研究において、様々な飲酒パターンと心筋梗塞の関係を明らかにする。</p> <p>(方法) 一般集団における症例対照研究である。対象者は 35-69 歳男性で、心筋梗塞の既往のある白人 427 名 (症例) とニューヨーク西部の 2 郡の任意に選ばれた健康な白人 905 名 (対照) である。コンピューターを用いてインタビューを行い、12-24 ヶ月間の飲酒パターンに関する詳細な情報を得た。</p> <p>(結果) 生涯の非飲酒者と比較した、禁酒者および飲酒者の心筋梗塞に対する危険は、有意ではないが低い傾向を示し、その調整オッズ比 (95%信頼区間) は、それぞれ 0.66(0.31-1.39) および 0.50(0.24-1.02) であった。生涯の非飲酒者と比較した、毎日の飲酒者の心筋梗塞に対する危険は有意に低く、その調整オッズ比 0.41 であった。生涯の非飲酒者と比較した主に摂食をしない飲酒者および主に摂食もする飲酒者の心筋梗塞に対する調整オッズ比は、それぞれ 1.49(0.96-2.31) および 0.62(0.28-1.37) であった。1 回/週以下の頻度の飲酒者と比較した週末のみの飲酒者の心筋梗塞に対する危険は有意に高く、その調整オッズ比は 1.91(1.21-3.01) であったが、生涯の非飲酒者と比較した週末のみの飲酒者の心筋梗塞に対する調整オッズ比は 0.91(0.40-2.07) であった。</p> <p>(結論) 飲酒パターンは循環器疾患に影響を与えることが明らかになった。</p>	